

市内交通網の整備について（改訂継続）

桐生市は首都圏から日帰りできる距離にあり、近年は観光を目的としての来桐者も増えて来ておりますことから、下記事項について早急にご検討いただきたく、要望いたします。

1. 住む人にやさしく、誰もが気軽に訪れ楽しめるバリアフリーのまちづくりの推進
2. 福祉交通との連携を図ることにより市内公共交通機関である「おりひめバス」を高年齢者のみならず一般市民や観光来訪者の市内移動に、より利用しやすくする改善を図る
 - ・土・日ダイヤの見直しによる市内観光施設巡回バスの導入
 - ・上毛電鉄・わたらせ渓谷鐵道を活用した、新里・黒保根地区と旧桐生地域の間のスムーズな連絡手段の構築
 - ・JR 両毛線・東武鐵道・上毛電鉄・わたらせ渓谷鐵道等とおりひめバスとの連携促進による観光ルートの早急な新設
3. 電動コミュニティバス等による市内循環型公共交通機関の構築
 - ・E COM 8 の営業ナンバー車輛による三次交通運行
 - ・低速小型電気自動車限定免許によるまちなか移動手段の特区による導入
 - * 高齢運転者も安心して使える新たな移動手段を開発し試験導入する。
4. 自転車と他の交通機関が共存できるまちづくりの推進
5. 安全で快適な歩行者優先のまちづくりの推進
 - ・低速交通優先の最高速度設定と横断歩道の充実
 - ・主要道路における自転車走行帯確保と自転車優先の交通規制の導入
 - ・通勤時間右折禁止交差点を増やすことによる道路拡幅を伴わない交通事故予防と渋滞の緩和

【桐生市からの回答】

1 バリアフリーのまちづくりの推進について

近年、首都圏から鉄道で本市にお越しになる観光客は増加傾向にあり、こうした観光客が、市内観光施設などを効率的に周遊できる仕組みづくりは、重要であると認識しております。

おりひめバスについては、現在の運行路線でも、主要観光施設の周遊は十分可能ですが、観光客などへの更なる利便性向上を図るために、土日ダイヤの変更や新たな観光周遊ルートづくりなどが可能かどうかについて、公共交通担当課や関係者などとも、総合的な協議・研究などを行ってまいりたいと考えております。

なお、その他の周遊促進策として、新桐生駅及び桐生駅には、電動アシスト付自転車を配備し、無料で貸付を行っているほか、市街地にある絹遺産を巡回できる周遊観光コースとして、桐生駅から低速電動コミュニティバス「MAYU」を運行しており、首都圏からの観光客などがまちなか周遊をしやすくする取り組みも行っております。

【回答担当】産業経済部観光交流課観光・物産係

まちづくりの基幹をなす道路整備につきましては、周辺の居住環境や交通量にも配慮し、子供、高齢者、障害のある方など誰もが安心して通行できる空間の確保が求められております。国・県などの関係機関と連携しながら、都市景観への配慮とともに、歩行者や自転車が安全・快適に利用できるようなユニバーサルデザインを導入するとともに、バリアフリー化を図り、人と環境にやさしい道路整備を推進してまいりたいと考えております。また、新桐生駅のバリアフリー化につきましても、鉄道事業者と連携し、駅利用者の利便性向上と安全性の確保を図るため、駅及び周辺施設のバリアフリー化の推進に努めてまいりたいと考えております。

【回答担当】都市整備部都市計画課計画係

2 「おりひめバス」の利用改善について

おりひめバスにつきましては、誰もが安心して市内で生活を送るための持続可能な公共交通体系の構築を目指し、高齢者や障害者などに優しいノンステップバスの導入を進めてまいりましたところ、平成29年度中には予備車両を含め全車両がノンステップバスとなります。

また、観光客の利用も視野に入れながら、鉄道との接続を可能な限り向上させた効果的なダイヤ設定に心掛けているところでありますが、バスの車両台数も限られていることから、おりひめバスのみですべての需要をカバーすることは困難でありますので、おりひめバスを補完するデマンドタクシーや予約制乗合タクシー、更には福祉タクシーなどとの連携を図りながら役割分担をする中で、観光客の皆様にも利用しやすいおりひめバスとなるよう、引き続き検討してまいりたいと考えております。

上毛電気鉄道については、新里地区と旧桐生地区、わたらせ渓谷鐵道については、黒保根地区と旧桐生地区を結ぶ、沿線住民の大切な生活路線であり、通勤・通学での利用や高齢者など公共交通以外に移動手段を持たない市民にとって必要不可欠な路線であると考えております。そうした中で、上毛電鉄については、サイクルトレインの実施やパークアンドライド用の無料駐車場設置など、利便性向上に向けた取り組みを行っております。また、わたらせ渓谷鐵道については、トロッコ列車やさまざまなイベント企画列車が観光客の人気を集めており、定期外旅客の輸送人員の確保につながっているとのことであります。

いずれにいたしましても、上毛電鉄及びわたらせ渓谷鐵道は、この地域にとって重要な公共交通機関でありますので、今後も県や沿線自治体と連携を図りながら両鉄道への適正な支援を継続し、新里・黒保根地区と旧桐生地域の間のスムーズな移動手段の確保について、引き続き全力で取り組んでまいりたいと考えております。

3 電動コミュニティバス等による市内循環型公共交通機関の構築について

自家用車以外の移動手段として、バス交通をはじめとする公共交通の果たす役割につきましては、環境負荷の低減や地域の活性化などの点においても、大変重要な役割を担うものであり、環境先進都市を目指す本市施策の一環として、次世代EVの活用は、今後ますます重要性を増すものと考えております。

このような中、平成27年度には、宮本町地区において交通需要量調査などを目的とした低速電動コミュニティバス「MAYU」を活用した実証実験を実施いたしました。

また、平成28年度には、菱地区において群馬大学が同様の実証実験を実施したところでもあります。

eCOM-8につきましては、一充電当たりの走行距離が約40kmと短く、充電にも長時間を要します（100Vで約8時間）。また、窓やドアがない開放的なデザインであるため、晴天時や寒さを感じない時期には外気を感じられ爽快ですが、悪天候時や冬季の寒さ対策などに課題があります。また、自動運転技術の転用が可能な16人乗りのeCOM-10が開発されたこともあり、こうした車輛の特殊性などもあることから、他市で行われる実証実験の結果なども検証しつつ、営業ナンバー車両による三次交通運行として活用することができるのか、その可能性について引き続き研究してまいりたいと考えております。

次に、低速小型電気自動車につきましては、自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動手段となることと期待されております。しかし、一般車両と比較すると走行速度などに違いがあることから、車幅が狭い車道を一般車両と混在して走行するための安全確保や低コスト化が課題と聞いております。

いずれにいたしましても、高齢化率の高い本市にとって、高齢者などの移動手段を確保することは重要な政策課題でもあります。現在、群馬大学が主導で進めている様々な車種の自動車による自動運転技術の実証実験について、本市としても継続的な支援をしていく考えであり、高齢者でも安心して使える新たな移動手段の幅が広がっていくものと期待しているところであります。

こうした状況も注視しつつ、他市の先進事例なども参考にしながら、地域の実情に沿った形でよりよい移動手段の確保について、研究を深めてまいりたいと考えております。

【回答担当】総合政策部広域連携推進室広域連携推進担当

4 自転車と他の交通機関が共存できる街づくりの推進について

自転車と他の交通機関が共存できるまちづくりの推進につきましては、本市の特徴としてJR両毛線、東武鉄道桐生線、上毛電気鉄道及びわたらせ渓谷鐵道の4路線の鉄道駅があり、今後も公共交通機関と自転車の乗り継ぎの利便性を高めるとともに自転車利用者のための安心した通行空間を確保しながら良好な自転車交通秩序の実現のための総合的対策を推進してまいりたいと考えております。

【回答担当】都市整備部土木課道路河川係

5 安全で快適な歩行者優先のまちづくりの推進について

歩行者の安全を図るため、学校周辺の道路を時速30 kmに制限する「ゾーン30」の取り組みを、平成26年度に東小学校地区で、平成28年度に広沢小学校地区で実施しました。今後も、地域の皆様の御意見を伺い、警察とも連携を図りながら、「ゾーン30」が有効と認められる地区については検討してまいりたいと考えております。

また、それ以外の危険な場所についても、地域の皆様と協議しながら、制限速度の見直しや横断歩道の設置などを警察に要望し、更なる交通安全に努めてまいりたいと考えております。

【回答担当】 市民生活部安全安心課安全推進係

安全で快適な歩行者優先のまちづくりの推進につきましては、引き続き、地域の課題やニーズ、交通状況や地理的条件などを考慮しながら、人優先の安全で快適な利用ができるよう、人と環境にやさしい歩行者空間の確保を推進してまいりたいと考えております。

また、主要道路における自転車走行帯確保と自転車優先の交通規制の導入につきましては、車、人及び自転車の事故をトータルで削減し円滑な交通を確保するため「群馬県自転車通行環境『検討の場』」において協議を行い、平成26年度より主要な道路において、自転車ピクトグラムや矢羽型の路面表示を実施し自転車通行空間の確保を図っているところであり、今後も実施してまいりたいと考えております。

【回答担当】 都市整備部土木課道路河川係

通勤時間右折禁止につきましては、道路を利用する多くの人に影響を与えることとなりますので、地域の皆様や警察にも御意見を伺いながら研究してまいりたいと考えております。

【回答担当】 市民生活部安全安心課安全推進係

公共交通網の整備促進について

本市は、JR両毛線、東武鉄道、上毛電気鉄道及びわたらせ渓谷鐵道の4つの鉄道と15の駅によって形成され、恵まれた交通環境にあります。鉄道は大量輸送が可能であり、安全性・定時性に優れ、地球環境に優しい輸送機関として、通勤・通学やまちづくりなどに重要な役割を果たしています。

また、おりひめバスにつきましては、JR桐生駅及び東武鉄道新桐生駅を拠点として、12台(うち1台は予備車)のバス車両で市内7路線を運行しております。新里地区及び黒保根地区においては、それぞれデマンドタクシーが運行されております。

このような中、少子高齢化が進む本市では、鉄道を利用しやすい、駅を中心としたコンパクトな都市形成を図る必要があります。将来の本市の発展には、市内を運行する乗合バスなどとの役割を明確にしながら、接続性を向上させるとともに、交通・都市計画・観光行政などが一体となった公共交通体系を構築する必要があるものと考えております。

なお、4つの鉄道を合流させた新駅につきましては、都市機能の向上や本市の活性化につながる大変有効な施策であります。莫大な財政負担を伴うことでもあり、将来の大きな構想として、調査・研究してまいりたいと考えております。

【回答担当】 総合政策部 広域連携推進室 広域連携推進担当